

No.149

国立大学法人 室蘭工業大学  
広報誌

# 蘭 岳

rangaku

01-04 巻頭特集:学長対談

05-06 受賞情報

07 工大生、世界に挑戦。

08 室工大OB・OG訪問

09-10 フォトコンテスト in Summer

11 ムロピょんのうたリリース!

12-13 NEWS&TOPICS

14 教育・研究振興会について



2015年、ニュートリノ振動の発見によってノーベル物理学賞を受賞した東京大学宇宙線研究所 梶田隆章教授。北海道新聞(令和5年11月26日掲載)の特別対談では、梶田教授と室蘭工業大学空閑良壽学長に、理工系大学を目指す若者に向けて研究活動の重要性、新時代に求められる人材について語り合っていました。

— 梶田先生の大学・大学院時代は？

**梶田** 大学時代は研究というより部活動に明け暮れていましたが(笑)、物理の授業に出ると高校時代の授業とは明らかに違う、物理学の本質のようなことを教えていただきました。

大学時代は学問に直に触れて、将来自分がどういう方向に進むべきかを考える大切な時期だと思います。その時期を経て、私が本格的に物理学を研究しようと思ったのは大学院時代ですね。

— 理工系人材の育成における大学院の重要性とは？

**空閑** 私も理工系大学と大学院は切り離せない、一貫したイメージを持っています。本学では、教員たちの世界水準の研究力を基盤に「確かな研究力をベースとした教育力」を掲げて、学生たちが髪の毛一本分でもオリジナリティが出せるような研究環境を整え、高度な理工系人材の育成に力を入れています。現在、その人材育成のために、学部卒業生の大学院博士前期課程への進学率アップを目指した大学院教育の充実を行っています。

**梶田** 私は大学院時代に小柴研究室に入ることが研究者としてのターニングポイントになりました。カミオカンデ実験に参加できたことで自分に合う研究のスタイルに出会い、そこから研究に没頭していきました。また、課題を解決する力はもちろん、課題を自ら見つけ解決していく力も博士課程で身につけることができたと思っています。

— 2015年、ノーベル物理学賞を受賞したお気持ちは？

**梶田** ノーベル賞受賞は、大変栄誉なことだと思っています。受賞によって幸運にも注目していただくようになったので、日本の学術の発展のために研究の大切さを広く伝えていきたいと思うようになりました。日本の各地域に

室蘭工業大学 学長  
空閑 良壽

しっかりと研究と教育ができる国公立大学があることは極めて重要だと思います。そういう観点でも、室蘭工業大学は熱心に取り組んでいます。

**空閑** 北海道は少子高齢化や過疎化が進み、日本の社会課題を先取りしているところがあります。地方の理工系大学が地域の課題解決をしていくことが、日本、そして世界の課題解決につながっていくと信じ、地域からグローバルな方向へ向かうよう本学もさらなる強みを出していきたいと思っています。

#### — これからの先端AI人材育成は？

**梶田** AIやデータサイエンスは、今後、どの分野においても必要不可欠な知識や技術になりますので、IT専門家の人材育成は論をまたないと思います。

**空閑** これからの時代に求められる科学技術者の人材育成を目指し、2019年4月、本学は「工学部」から改組再編し「理工学部」を開設しました。さらに情報化の波を予見し、AIやデータサイエンスなどを学ぶ「数理データサイエンス教育プログラム」を全学必修化し、「情報」×「専門」の研究環境を実現しました。2024年4月には大学院の情報電子工学系専攻に「共創情報学コース」を開設し、産業界からも求められる人材育成を目指します。

#### — 理工系大学を目指す若い世代にメッセージをお願いします。

**梶田** 若い皆さんには、『将来、自分はどうなりたい』という夢をもっていただきたいです。その夢の中に、自然の謎を解き明かしたいという自然科学への夢を抱いたのであれば、迷わず大学、大学院で研究してください。自分の研究に心からの興味をもち、信念をもって追究していただきたいです。

**空閑** 私たちは皆さんの夢の実現を全力でサポートしてきたいと思っています。ぜひ室蘭工業大学に学びに来てください。

東京大学卓越教授  
東京大学特別荣誉教授  
東京大学宇宙線研究所 教授  
**梶田 隆章**  
[ノーベル物理学賞受賞]

#### Profile

埼玉県出身。埼玉大学理学部卒業後、東京大学大学院理学系研究科に進学。小柴昌俊教授(当時)の研究室に所属し、カムイオカンデ実験に参加。1998年ニュートリノが質量をもつことをニュートリノ国際会議で発表。2008年～2022年東京大学宇宙線研究所長。「ニュートリノが質量をもつことを示すニュートリノ振動の発見」により、2015年にノーベル物理学賞を受賞。現在は大型低温重力波望遠鏡「KAGRA」のリーダーも務める。

# 学長としての9年間を振り返って

私は2015年4月から9年間、学長として本学の運営の舵取りを、さらに理事・副学長時代の6年間を加えたと15年間、執行部の一員として大学運営に携わったこととなります。

国内の18歳人口の減少が顕著となっていくなかでも、北海道のそれはより深刻な状況であり、志願者層の減少は、本学のみならず国内の大学全体の大きな課題となっています。また、国立大学の大きな財源である運営費交付金が法人化以降10年以上に亘って減額されていく一方で、社会からの国立大学の改革へのプレッシャーは高まる傾向にあります。このような背景の下、学長としての9年間の中で、最も大きなそして大変だった事業は、2019年に実施した、本学が国立の新制大学になって以来70年間で初めての工学部から理工学部への改組であります。ここでは、理工系人材の幅を広げて、横串として全学必修の情報教育を大きく充実させた理工学部へと教育改革を行いました。さらに情報教育に関しては、2021年度からは、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)を全学で実施、その実績をもって2024年度中には、応用基礎レベルの申請・認定を目指しています。

私は本学が国立の工業大学としての存在感を高めていくためには、私立大学との違いを鮮明にするべく、大学院教育の充実が必須と常々、考えていました。この観点から、理事・副学長時代の2014年度にも大学院博士前期・後期課程の改組を行いました。理工学部からの卒業生が大学院へ進むようになった現在では、その育成すべき人材像を見据えたさらなる改革が必要と捉えています。進学希望の学生諸君そして出口の産業界・社会からも、魅力ある大学院とし、博士前期課程への進学率50%達成を学長ビジョンでも掲げています。本学の学部生が、本学大学院へ進学するのがあたり前となる、いわゆる「大学院大学」となり、国立の工業大学としての本学の存在価値を是非とも高めたいものです。

昨年度、タイミング良く文部科学省は国立大学の情報系大学院の拡充支援を開始しました。本学も初年度に申請・採択され、博士前期課程の情報電子工学系専攻に、2024年4月より共創情報学コース(定員15名)を新設できました。大学院の学生定員増をその原資となる予算獲得も含めて実現できたことは大変意義があることだと自負しています。是非とも、大学院進学率50%(300人超え)の起爆剤としたいものです。また博士後期課程では、2021年度より「次世代イノベーションを駆動する異分野融合博士人材育成支援プロジェクト」の採択を得て、情報×専門の異分野融合人材の育成支援が行えるようになりました。2023年度には世界TOP水準の研究・教育を目指すコンピュータ科学センターも設立しました。

これらの教育を支える力は本学教員の研究力にあります。私は本学の特徴を「確かな研究力をベースとした教育力」というキャッチフレーズで表現し、その実質化を目指しています。ここで言う「確かな研究力」というのはエビデンスに基づいた世界水準の研究力であり、例えば、世界のTOP50%論文誌に掲載された論文や世界中の研究者から参考に(引用)される論文として発表された研究成果に基づく力です。学長ビジョンでも謳っていますように私は、「確かな「世界水準」の研究力」を伸ばし発展させるべく、学長裁量経費の選択と集中をバランスよく行うことを心がけ、研究支援と本学教員の論文の質の向上に力を注いできました。若手研究者支援パッケージの創設や2020年度からの新たな年俸制の導入により、優れた若手教員の採用・昇進、教員の多様性も推進しています。教育と研究に、優秀な本学教員が働きやすい環境を整えることも大変重要です。

また私は、「大学ランキング」の積極的活用を「確かな研究力」そしてそれをベースとした教育力の裏付けの一つとして用いています。例えば、本学は2つ世界の代表的大学ランキング(Times Higher Education (THE)とQSアジア大学ランキング)にランクインしており、これは道内では本学と北海道大学の2大学のみです。また同窓生の活躍の一例として、技術士と一級建築士合格者数はそれぞれ国立工業系大学では全国3位と5位と好成績となっており、大学ランキングポスターにまとめて本学志願者などのステークホルダーに毎年、大いにアピールしています。おかげさまで、本学の研究力の充実と広報戦略がうまく噛み合っており、2023年春の本学昼間コースの一般入試(前期・後期合わせたもの)の倍率は2年連続で上昇し、2023年度は少なくともデータがある過去20年間の中でダントツの最高倍率となり、志願者総数も過去最高でした。私は本学への優秀な志願者の確保は、学部、大学院ともに最優先事項であることある度に言い続けています。是非とも、優秀な志願者が集まる大学としたいものです。

昨年末には私の母校である東京工業大学を含む3つの国立の工業大学(室蘭工業大学、東京工業大学、九州工業大学)による、産学連携、そして理工系人材育成の推進の観点から、三工大連携の締結を実現させました。個人的には、私の集大成の仕事とも言える案件であり大変嬉しく思います。三工業大学の共通する強みである、フード&ヘルス、AI、航空・宇宙分野で、3つの工業大学の研究が協働し、世界へ競争力を持って発展し、そして人材育成へ展開していくことを大いに期待しています。

最後になりますが、私とともに大学運営に携わった執行部の皆さん、長期にわたって支えてくださった事務局そして本学教職員の皆様、学生諸君に感謝の意を表します。ありがとうございました。



学長

**空閑 良壽**

KUGA Yoshikazu

大学院工学研究科教授、副学  
長、理事・副学長を経て2015  
年4月から学長。専門は化学工  
学、微粒子工学。

## 太田 香教授

### 令和5年度ソロプチミスト日本財団 女性研究者賞受賞

賞の概要

公益財団法人ソロプチミスト財団が実施している令和5年度の支援事業において、室蘭工業大学コンピュータ科学センター太田香教授が「女性研究者賞」を受賞しました。ソロプチミスト日本財団女性研究者賞は、2013年、同財団の創立30周年を記念し、女性研究者へ躍進の機会を与えることを目的として創設されました。

<受賞コメント>

この度は、ソロプチミスト日本財団より女性研究者賞という素晴らしい賞を頂戴し、誠に光栄に思います。ご推薦頂いた国際ソロプチミスト室蘭の前田会長をはじめ、会員の皆様に深く感謝申し上げます。また、日頃サポートして頂いている室蘭工業大学、同僚と共同研究者の皆様、地域の皆様および家族のお陰でこのような受賞ができていたものと感じております。頂いた支援金を有効に活用して、今後も情報分野の発展に寄与していければと思います。

### 第5回輝く女性研究者賞(科学技術振興機構理事長賞)を受賞

賞の概要

太田香教授が第5回輝く女性研究者賞(科学技術振興機構理事長賞)を受賞しました。輝く女性研究者賞は、持続的な社会と未来に貢献する優れた研究などを行っている女性研究者、および女性研究者の活躍を推進している機関を表彰するもので、第5回となる本年度は令和5年4月3日から6月30日までの期間に募集し、外部有識者からなる選考委員会による審査を経て、輝く女性研究者賞の受賞者を決定しました。表彰式は令和5年11月19日(日)にテレコムセンタービルで開催されました。

<受賞コメント>

このような輝かしい賞を受賞でき誠に光栄に思います。この度の受賞は、ひとえに共同研究者、地域の皆様、大学関係者、家族からのサポート、ならびにJSTや日本学術振興会などからの助成により不自由なく研究を続けて来られたお陰です。本受賞を励みにして、今後とも研究や後進の育成に邁進するとともに、一人でも多くの女性が科学技術の分野で活躍できるような社会になるよう貢献していけたらと思います。

### 北海道科学技術奨励賞を受賞

賞の概要

令和5年12月25日に北海道科学技術賞及び北海道科学技術奨励賞が発表され、本学の太田香教授が北海道科学技術奨励賞を受賞しました。北海道科学技術奨励賞は、科学技術上のすぐれた発明、研究等を行い、北海道産業の振興、道民生活の向上など経済社会の発展振興等に功績のあった方に、知事表彰として贈呈されるものです。

## 吉成 哲教授、藤木 裕行教授、柴田 義光准教授ほか

### 令和5年度北海道地方発明表彰 発明協会会長賞を受賞

賞の概要

吉成哲をはじめとした本学教員が、技術的に優秀かつ、実施効果の高い技術やデザインを生み出した発明者等、またその実施者であるとして、令和5年度北海道地方発明表彰 発明協会会長賞を受賞しました。本受賞は、近年頻発する豪雨災害時の土砂除去作業において、作業姿勢を改善し、道具を軽量にすることで、作業者の負担軽減及び作業の効率化を図ることを目的としたショベルに関するもので、科学技術振興機構A-STEP機能検証フェーズタイプ(研究代表:吉成 哲教授)の研究成果です。土砂除去作業を想定した呼吸代謝計測試験を実施したところ、従来のショベルと比較して作業負担の指標となる酸素摂取量を約13%減少することができました。災害復興現場において使用され、作業者の負担軽減に寄与しています。

<受賞コメント>

この度は、北海道地方発明表彰発明協会会長賞を受賞でき、関係各位に感謝申し上げます。産学官連携による研究開発の成果を評価いただき大変光栄に存じます。今後とも様々な連携を推進し、大学の知が社会実装につながるよう努めてまいります。(吉成教授)



## 泉 佑太助教

### ノーステック財団理事長賞を受賞

賞の概要

泉佑太助教が、公益財団法人北海道科学技術総合振興センター(略称:ノーステック財団(NOASTEC))から、ノーステック財団・理事長賞を受賞しました。本賞は、ノーステック財団の研究開発助成事業の一つである若手研究人材育成事業「令和4年度若手研究人材・ネットワーク育成補助金(タレント補助金)」に採択となった、若手研究者(応募70件中20件)の中から、最も事業の趣旨に合致し、且つ優秀な研究成果を挙げた研究者1名に対して贈呈されるものです。

<受賞コメント>

大変名誉ある賞をいただき光栄です。本受賞は、学内の皆様はもとより、研究室の学生、共同研究者の皆様、家族からのご協力があったことです。この場をお借りして皆さまに感謝を申し上げたいと思います。今後とも電波科学によってインフラや災害などの課題解決に貢献することをミッションとして、研究開発に邁進する所存です。



## 董 冕雄副学長・教授

### 世界最高峰の研究者を選出するHighly Cited Researchers 2023に選出

信頼性の高い変革的な知見を提供するグローバルリーダーであるクラリベイト・アナリティクスは、2023年11月15日、高被引用論文著者 (Highly Cited Researchers) 2023年版を公表し、本学からはクロスフィールド分野で董 冕雄副学長(しくみ解明系領域・教授)が選出されました。Highly Cited Researchers高被引用論文著者には、特定出版年・特定分野における世界の全論文のうち引用された回数が上位1%に入る論文を複数発表しており、後続の研究に大きな影響を与えている科学者や社会科学者が選出されます。2023年は科学を20の研究分野に分け、全世界で6,849名の研究者が選出されました。



## 李 鶴准教授

李鶴准教授がIEEE Computer Society Tokyo/Japan Joint Local Chapters Young Author Awardを受賞しました。これは、若手研究者のIEEE Computer Societyにおける研究活動奨励のため、IEEE Computer Societyで発行するTransactions、Magazine等の定期刊行誌あるいは主催・共催国際会議Proceedingsに掲載された優秀な論文の筆頭著者であって、IEEE Computer Society Japan Chapterに所属する若手研究者が表彰されるものです。



## 学生の表彰

### 望月 楓華さん(環境触媒化学研究室)

#### 触媒学会北海道支部第61回オーロラセミナーBest research awardを受賞

研究題目/P修飾HZSM-5を用いたLDPEの低級オレフィン化

賞の概要

令和5年8月4日に北海道大学(札幌)で開催された触媒学会北海道支部第61回オーロラセミナーにおける発表で「Best research award (Energy Advance)」を受賞しました。Best research awardは全24件のポスター発表の中から、優秀な発表を行った発表者3名を表彰の対象としています。また、受賞した3名には個別のRSC(Royal Society of Chemistry)の論文誌名を冠した賞が贈呈されました。

<受賞コメント>

この度は第61回オーロラセミナー優秀ポスター賞を頂き、大変光栄に思います。これまでご指導、ご助言を頂きました神田先生、名誉教授上道先生そして共同研究を行っている住友化学株式会社の方々に、心より感謝申し上げます。今後もさらなるケミカルリサイクル技術の向上そして廃プラスチック問題の解決に向けて、研究に精進して参ります。



### 稲垣 達さん(材料加工学研究室(在籍時))

#### 日本銅学会第57回論文賞を受賞

研究内容/RMA-CREO処理を適用したCu-Cr-Zr合金の二段時効特性

賞の概要

本学の材料加工学研究室に所属していた稲垣達さん(現職:日鉄テクノロジー)が日本銅学会第57回論文賞を受賞しました。日本銅学会では、昭和42年より日本銅学会誌に掲載された研究論文を対象に論文賞を選出しています。本賞は、日本銅学会誌62巻に掲載された全論文から、審査委員による一次審査、編集委員による二次審査の結果、優秀論文として選定されるものです。

<受賞コメント>

先生の多大なるご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

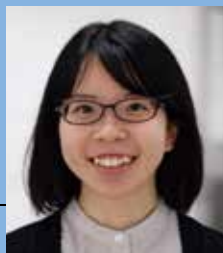


# 工大生、世界に挑戦。

今回は、令和2年度に新設した、学生の国際的な活動を支援する制度「ムロラン・グローバル・ステージ・チャレンジ奨学生」に採択され国際会議で研究発表をした鈴木絢子さんにインタビューしました。

鈴木 絢子 さん

大学院工学研究科博士前期課程環境創生工学系専攻1年



## — 国際会議で発表することになったきっかけはなんですか？

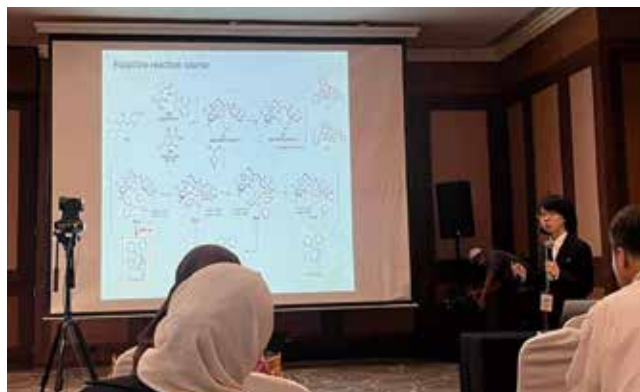
昨年、同じ研究室のM2の先輩がマレーシアで開催されたInternational Congress on Pure & Applied Chemistry (ICPAC)という国際会議に参加しており、今年は私にICPACに出場してみないかと当研究室の教授からお声をかけていただいたことがきっかけです。海外の学会に出場するといった機会はめったにないことですので、是非参加させて下さいと希望し、本国際会議の出場を推薦していただきました。

## — どこに、どのくらいの期間行きましたか？

インドネシアのバリ島に2023年9月11日～9月18日までの8日間行ってきました。

## — 発表した研究内容について、教えてください。

創薬に役立つ環境にやさしい新しい有機触媒反応を研究しています。具体的には、「ペプチド有機分子触媒を用いたピラノンとフルベンのエナンチオ選択的1,3-双極子[6+4]環化付加反応」であり、得られる生成物は抗HIV活性や抗がん活性などの生物活性を示す有用な合成中間体です。私は、本反応に有効な有機分子触媒の開発とともに化学収量とエナンチオ選択性の改善に取り組んでおり、その成果を発表しました。



## — 特に、注目してほしい点はどこですか？

参考論文においては3成分触媒(触媒および2種類の共触媒)を用いているのに対し、私たちの研究では、当研究室により開発されたペプチド有機分子触媒を用いて2成分触媒(触媒および1種類の共触媒)のみで本反応に有効な触媒系を明らかにすることが出来ました。

## — 海外発表で苦戦した点や学んだ点を教えてください。

発表では、英語での質疑応答が思うようにできず、英語のリス

ニング能力が足りないこと、考えていることを英語で説明する能力が足りないことを痛感しました。また、本学会において現地の文化や慣習に触れ、アジア各国の研究者と直接意見交換することで、化学の知識を得るだけでなく、英語でのコミュニケーション能力の向上や国際感覚を養うことが出来たと思います。

## — 話題は変わりまして、今回、初めての海外とのことですが、現地の雰囲気や印象に残っていることを教えてください。

開催会場から美しいビーチが見え、街には主にヒンドゥー教にまつわる石像や供物が多く見られました。バリ島は、観光地としても有名なこともあり、すれ違う人の多くが笑顔で挨拶をしてくれる明るい雰囲気の街です。食べ物は、辛いものもありますが、日本人の味覚にも合うような味付けの料理が多く、とても美味しかったです。また、現地の道路は特に印象的でした。車間距離がかなり近く、渋滞のときのような距離感で常に車とバイクが走っており、移動の際はドキドキしました。また、信号がほとんど存在せず、歩道もない所が多いので、道を歩くときは常に周りを注意する必要があることを学びました。



## — 在学生に対して、海外における国際会議発表を、後押しするメッセージをお願いします！

海外での発表は、学術的な知識や国際感覚を養う上で良い機会になると思います。私自身、今回の経験で大きく視野が広がったとともに、実際に現地に行って挑戦しないとわからないことばかりだと感じました。そのため、海外での発表に興味があるけど自信がない人や迷っている人はまずチャレンジしてみることを強くおすすめします。

鈴木さん、ありがとうございました！



# 室工大 OB・OG 訪問

室蘭工業大学を卒業後、様々な分野で活躍しているOB・OGを紹介します。今回は、松本 大樹さんにお話を伺いました。



## 松本 大樹さん Hiroki Matsumoto

- 出身学科(専攻)/博士後期課程生産情報システム工学専攻・2000年3月修了
- 出身高校/青森県立八戸高等学校
- 勤務先/室蘭工業大学大学院工学研究科(もの創造系領域)准教授・2004年4月採用

### ■学生時代のこと

#### (1)室蘭工業大学を志望した理由、

##### また卒業された学科(専攻)を選んだ理由

幼少の頃に空き地にあったスクラップの自動車で遊んだり、幼稚園ポンズ松本が街中を走る車をみては車名を叫んでいたとの話を思い出したりして、車に関連する機械分野を選択することにしました。というのは表向きで、高校野球に没頭して将来を考えていなかったため、高3の夏に「将来漬しが効く」という理由で機械系を選び、国公立で入れる大学を選んだというのが正直なところでした。

#### (2)所属研究室・研究テーマ、

##### またそのテーマに興味を持ったきっかけ

所属研究室は機械力学研究室です。学生当時を選択した理由は野球部の先輩がいて、楽しく酒が飲めるだろうという理由でした。当時の指導教員の西田公至教授の丁寧な機械力学の板書は大好きでしたが、その内容を深く理解しないまま選択した不真面目な学生松本でした。初めの研究テーマは、非線形振動系のカオス挙動に関する研究です。力学系の数値解析結果からアトラクタという模様(線図)を作り、力学系の特徴を説明するものですが、一本の複雑な数式から発生する数値の羅列が、綺麗な模様(アトラクタ)を描く様に惹かれました。大学院進学時の面接で、研究室選択の理由を「自分がよくわからない分野だから」と答えたように、未知のことを知っていく喜びがあるところに無自覚に進んでいたように思います。大学院では予備実験中に発見した空力騒音に関する未知の現象の解明がテーマになり、見えない音源から音が発生する未知の現象をいかに説明していくに没頭していくことになりました。また、当時の研究室にない実験設備(風洞や無響室)を整えていく楽しみにも惹かれていましたが、見えないものを見えるようにすることに面白みを強く感じていました。



野球部での活動風景(赤い上着が松本さん)

#### (3)大学時代を振り返って、

##### 特に思い出に残っていること

寮や部活内外で、多くの飲みニケーションをしたことでしょうか。寮は縦も横も繋がりがありプライベートなど無い生活も新鮮で、夜通し語っていたことを思い出します。部活(懲りもせず硬式野球をしています)も指導者がいないことが新鮮で、ミーティングと称してはよく飲み語り合いました。学生生活では、自分が自立して考えていくことに面白みを感じていたと思います。様々なことが自分の体を使った実験と感じていて、多くの失敗をしながら生活していましたが、その失敗が今役立っていると感じます。

### ■現在の仕事のこと

#### (1)就職先として志望された理由、

##### 担当されている仕事の内容

一般企業に就職できなかった(しなかった)から、最後の皆でしたというのが本当の理由ですが、研究は嫌じゃなかったのが大学に残った理由だと思います。周囲の方々のおかげもあり、現職に就くことができたと思いますので、とても感謝しています。担当は、室蘭工大の学部、大学院で機械力学などの講義、演習指導や、機械力学研究室にて卒業論修論指導とともに、企業との共同研究などを行っています。機械力学研究室では、機械振動、音響に関わる分野で、振動抑制、騒音抑制手法の開発のほか、振動を利用した材料定数の同定手法の開発などを行なっています。



実験で使用する無響室を見学させていただきました(耳がそわそわしました)

#### (2)仕事に面白さ、やりがいを感じる時

誰かのお役に立てた時にやりがいを感じます。未知の現象に出会った時や解明した時に面白さとやりがいを感じます。具体的には、様々な会話の中で学生さんの目が変わる瞬間を見た時で、やる気を引き出した貢献感があつたときです。また、未知の現象を解明したり、できなかったことができるようになったりすることで、世の中や依頼先への貢献

感で幸せになれます。

#### (3)在学中に学んだことや身についたことで、

##### 現在の仕事に役立っている、

##### あるいはつながっていると感じること

飲みニケーションは役に立っていますが、飲みはなくても、在学中に経験した様々な失敗や成功体験、そこに至る「はじめの一步を踏み出す気持ち」は現在の仕事を支えていると思います。博士後期課程では留年も経験しましたが、その時の精神面での落ち込みや変化は、学生さんと話をする時に役に立っていると感じます。仕事柄、授業で学んだ知識や講義で聞きかじった内容がそのまま役立ちますが、学力不足で入学して以来の学習や研究を通して学んだ「独学する姿勢」は、現在の自分のフィールドを広げる際に非常に役に立っていると思います。

#### (4)これからの仕事の目標、夢

メーカーだけでなく社会生活には振動騒音問題が数多くあります。振動騒音関連分野は、製品の品質や、製造者への負担の軽減だけでなく、社会に広く影響のある重要な分野であると感じています。これから巡り会う問題を解決するために貢献したいと思っているので、さらに広く深くフィールドを広げられるようにしたいと考えています。また、この分野で活躍する技術者を増やすためにも、振動や音に関する現象の面白さを講義などで伝えていけたら嬉しく思います。

### ■在学生へのメッセージなど

#### (1)室蘭工業大学の印象・期待することを

##### 教えてください。

室蘭工業大学は、派手さはないが基本をおさえたい良い大学だと思います。各分野共通の基礎部分や、分野ごとの基礎部分は流行り廃りがない強みとなると思いますので、学生にはしっかり伝えてほしいと思います。

#### (2)在学生に向けて、メッセージ・アドバイス

##### などをぜひお願いします!

教えてくれなかったからわからない、できないではなく、自ら技術をとりまく姿勢を期待します。経験は全てプラスで無駄な経験はありません。多くの失敗と成功体験を積んで、引き出しを増やしてほしいです。どんなことでも良いので、自分史上最高を日々目指してみるのが、日々を充実させて成長できるコツかなと思います。

松本さん、ありがとうございました!

インスタで室蘭工業大学の魅力発見!

# 学生フォトコンテスト2023 in Summer

令和5年7月から10月にかけて、学生が日常のキャンパス風景の中で、「室蘭工業大学のココって魅力、この場所の雰囲気イイな」と思った瞬間を撮影した写真を募集しました。今回は、キャンパス、関連施設内で撮影した景色や人物、自然環境(動植物)、歴史、建築物、充実した設備、部活動やサークル活動、各行事、学生生活の様子など、大学に関連するもの、かつ夏をイメージさせる写真を対象としました。



## 学長賞

「白老実験場の美しさ/  
The Beauty of A shiraoi  
Experiment Field」

(室蘭工業大学白老実験場)

Photo by Jason Nathanael

## 広報室長賞

「Nocturnal Unity:Embracing  
Muroran IT's Night Charm」

(附属図書館前)

Photo by Anusha Venkatachalpathy





優秀賞

## 「数秒の光」

(大学北側駐車場)

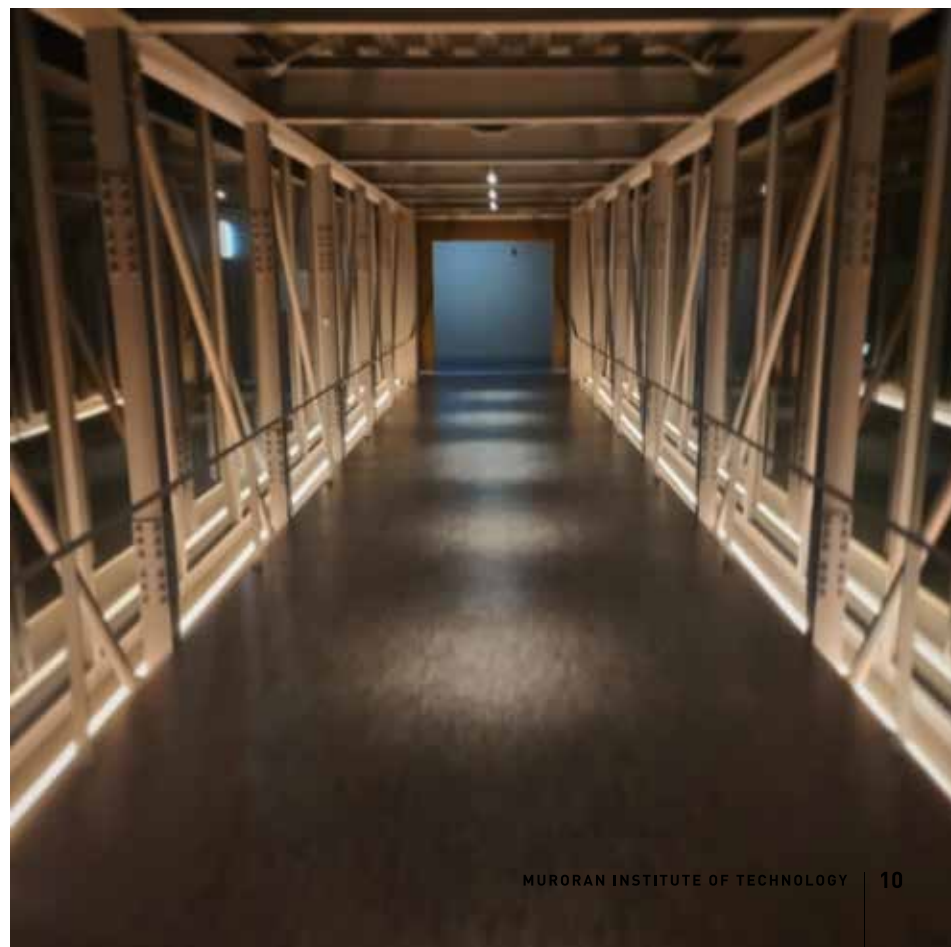
Photo by 坂井 皓地

優秀賞

## 「つなぎ目」

(ソラミチ)

Photo by 吉田 光希





# ムロぴよんのうた リリース!



「ムロぴよんのうた」は室蘭工業大学公式キャラクター「ムロぴよん」のテーマソングとして、室蘭市在住のシンガーソングライターKENTO氏に作詞作曲を依頼し、この度リリースしました。作詞には、学生広報スタッフ「むろこーほー」が提案したムロぴよんに関するキーワードや「大学公式X」で募集したキーワードも使用されています。

第63回室蘭工業大学工大祭2日目の令和5年9月17日にKENTO氏をゲストとしてお招きし、「ムロぴよんのうた」を含めたLIVEを開催しました。令和5年12月25日には、室蘭工業大学公式YouTubeでオフィシャルミュージックビデオを公開しました。

室蘭工業大学だけではなく、室蘭市の観光名所や食、地域の皆さんのところにムロぴよんが登場します！市民に人気のくじらんと室工大のムロぴよんが、夢の共演を果たしました。

是非室蘭工業大学公式YouTubeにて「ムロぴよんのうた」Official Music Videoをご覧ください！



工大祭での公開ライブ



オフィシャル  
ミュージックビデオ



## ムロぴよんのうた

作詞：KENTO、むろこーほー、  
ムロぴよんファンの皆様

作曲：KENTO

動画制作：森中大稀

### \*出演者・協力者

- 室蘭市マスコット「くじらん」
- 室蘭工業大学公式キャラクター「ムロぴよん」
- 室工大学生広報スタッフ「むろこーほー」
- ゴチャマゼ中島
- 文化学園大学 附属幼稚園



ムロぴよんのうた  
Composed by KENTO  
Words by KENTO

Intro

A

B

サビ



## 01 第47回・第48回蘭岳コンサートを開催

令和5年7月2日に開催した第47回蘭岳コンサートでは、本学管弦楽団と創造工学科2年の島谷一生さんをお招きし、映画魔女の宅急便より「海に見える街」、[ホールニューワールド]などが演奏され、約100名の方々が演奏を楽しみました。また10月28日に開催した第48回では、ご夫婦で音楽ユニット「ニコイチヴァイオリン」として活動されている齋藤真知亜氏、齋藤律子氏をお招きし、約120名の方々が演奏を楽しみました。第1部では「メヌ

エット ト長調]などを、初めての発表会をイメージした子供役とピアノ伴奏者役の設定で、パフォーマンスやトークを交えながら演奏を披露いただき、第2部では「タイスの瞑想曲」などを演奏いただきました。



▲第47回蘭岳コンサート



▲第48回蘭岳コンサート

## 02 室蘭工業大学デジタル・キャンパス推進 スチューデントアンバサダーを任命

室蘭工業大学は、今年度から本学のデジタル・キャンパスの実現に向けた取組を促進するために、デジタル・キャンパス推進スチューデントアンバサダー制度を創設しました。令和5年7月20日に認定式を開催し、応募のあった学部1年生から大学院生まで計5名の学生が出席し、学長から学生一人ひと

りに認定証が贈られました。その後、佐藤デジタル・キャンパス推進室長と、本学のDX戦略や実際に導入しているシステム等に関して懇談を行いました。今後、デジタル・キャンパス化や大学公式モバイルアプリ等の企画、提案等の活動支援を行う予定です。



▲スチューデントアンバサダー任命式

## 03 コンピュータ科学センター 創立記念シンポジウムを開催

令和5年4月に創立したコンピュータ科学センターの創立記念シンポジウムを令和5年8月9日に開催しました。このシンポジウムは、午前午後の二

部構成で行われ、第一線で活躍する多様な研究者の方々に講師にお招きし、パネルディスカッションや講演を行いました。



▲シンポジウムにおける記念撮影

## 04 島根大学と包括連携協定を締結

令和5年8月28日、室蘭工業大学と島根大学は包括連携協力協定を締結しました。今後は、清水副学長を中心に、研究面での連携を基に、学生及び教職員の交流を進めるとともに、両者の連携を深めることにより、研究開発型の高付加価値産業への転

換、持続可能で働きやすい就労環境の構築、産学官のオールジャパン体制での新素材開発、新技術開発を目指し、イノベーションに資するビジネスモデルの創出による地域経済の活性化、将来を担う中核人材の育成に貢献していきます。



▲協定締結式の様子

## 05 株式会社浅井農園、愛媛大学、北海道伊達市と共同で地域活性化の研究を開始

令和5年8月31日に内閣府事業「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)」に、本学が代表研究機関(研究開発責任者:山中真也教授)として、株式会社浅井農園(浅井雄一郎代表取締役)、北海道伊達市(堀井敬太市長)、愛媛大学(佐藤哲特命教授)と共同で応募した研究課題「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」が採択されました。本研究開発では、誰もが自分らしい生き方(学び方、働き方)ができる社会、小人口化社

会においても多くの人々と交流が可能なソーシャル・キャピタルが豊かな社会を目指し、そのような理想的なSociety5.0時代の未来社会像を北海道伊達市にショーケースとして具現化することを目的としています。伊達市で起こるパイオニアに駆動される多様な展開プロセスに、アカデミアが寄与することで、実社会の中でのアカデミア活躍の場をつくりだし、さらに、伊達市の他の産業や、他地域にも展開することを目指します。



▲プラットフォームの概念図

## 06 JSBC2023 室蘭工業大学で初開催

令和5年9月6日から8日にかけて、室蘭工業大学を会場としてJapan Steel Bridge Competition 2023(JSBC2023)が開催されました。JSBCは学生が鋼橋模型の製作を通して、設計・製作に関する知識や協調性、エンジニアリングデザイン能力といった土木技術者に必要とされる能力を養う大会です。第14回目となるJSBC2023は、初の北海道開催であり、全国16校18チーム、学生総数145名、展示企業15社など、総勢238名が室蘭工業大学に集いました。

今回製作する鋼橋は、初となる「斜橋」を対象としています。競技は、「架設部門」「構造部門」「美観部門」「総合部門」の観点から鋼製橋梁模型を評価します。

初日は開会式が行われ、2日目から架設競技が行われました。最終日はプレゼンテーションと载荷競技、表彰式と閉会式が行われました。総合部門優勝は福井大学。室蘭工業大学はBチームが総合部門準優勝、Aチームが特別賞を受賞しました。



▲室蘭工業大学チームの载荷競技の様子

## 07 白糠高校調理プロジェクト-白糠食物語をつなぐ-を実施

令和5年10月1日に北海道・白糠町で白糠高校調理プロジェクト-白糠食物語をつなぐ-を実施しました。白糠高校調理プロジェクトは、白糠高校の3年生を対象とした授業「総合的な探求の時間」におけるビジネスプラン実践であり、商品・プランの改善に役立てるとともに、食を専門とする方との交流を通じて生徒の主体性・社会性・コミュニケーション能力の育成を図ることを目的としています。今回、白糠高校の生徒がビジネスプランの中でいくつか提案したメニューの中から、白糠町の食材を使った料理

(レアチーズケーキ、たこ・シソ小籠包、鹿肉ハンバーガー、犬用かぼちゃクッキー)を実際に調理し、国内外で活躍されている下國伸シェフをはじめ、白糠高校の先生方、学長、徳楽教授らアシルトイタ拠点メンバーで試食を行いました。レシピや調理は事前に下國シェフから指導を受け、本番の調理に臨みました。

このほかにも、アシルトイタ拠点の活動はnote([https://note.com/asir\\_toyta](https://note.com/asir_toyta))で随時公開中!



▲生徒の皆さんが提案したメニュー。全部おいしそう

## 08 国立アイヌ民族博物館と包括連携協力協定を締結

令和5年10月26日、室蘭工業大学と国立アイヌ民族博物館は、北海道という地域の特色を活かした教育研究等について包括的な連携のもと相互に協力し、地域社会の発展と人材育成及び学術の振興並びにアイヌ民族の歴史文化の正しい理解促進に寄与することを目的として、包括連携協力協定を締結しました。今後は、連携協力推進会議を設置

し、本学に新たに設置したウィズミュージアムタスクフォースと国立アイヌ民族博物館の担当者を中心に、両者の連携を深めることにより、アイヌ民族の歴史文化の正しい理解促進に寄与すること及び北海道を世界水準の価値創造空間にすることを目指してまいります。



▲国立アイヌ民族博物館における締結式の様子

## 09 「物価高騰支援!100円定食」を実施

令和5年11月から令和6年1月にかけて、本学学生後援会から支援をいただき、本学学生を対象とした定食販売を行いました。第1弾はチキンおろしだれ定食を1日100食限定で令和5年11月13日~17日にかけて販売しました。第2弾は令和5年12月

18日~22日にかけてハンバーグデミソース定食を1日200食限定で販売し、第3弾では令和6年1月22日~26日にかけて揚げ鶏の香味ソース定食を販売しました。



▲第1弾チキンおろしだれ定食

## 10 東京工業大学及び九州工業大学と科学技術に関する産学・人材育成連携覚書を締結

室蘭工業大学、東京工業大学および九州工業大学は、科学技術に関する産学・人材育成連携の覚書を令和5年12月22日に締結しました。今回の科学技術に関する産学・人材育成連携覚書締結により、科学技術に関する産学・人材育成連携覚書産業を

リードする研究と教育を行う三大学がそれぞれの特性を活かした多様な連携を図ることで、我が国と世界の産業の発展を支える新しい理工系や科学技術領域の研究、産学連携、および先導的な教育・人材育成の更なる推進を図ります。

室蘭工業大学、東京工業大学および九州工業大学による科学技術に関する産学・人材育成連携 覚書締結式



▲東京工業大学で開催された協定締結式後の記念撮影

# 国立大学法人室蘭工業大学教育・研究振興会

室蘭工業大学の教育・研究の発展に資するとともに、  
地域及び我が国の経済・社会の発展に寄与することを目的とし、  
「室蘭工業大学教育・研究振興会」では「学生等修学支援事業基金」  
及び「研究等支援事業基金」を設置し、  
経済的な支援が必要な学生に対する事業や、  
学生が行う研究を支援する事業を運営しています。

## 学生等修学支援事業

経済的理由により修学が困難な学生等を対象とした

- ・授業料等の減免
- ・奨学金の給付
- ・海外渡航支援

## 研究等支援事業

学生又は不安定な雇用状態にある研究者を対象とした

- ・公募プロジェクトにおける研究活動に要する費用補助
- ・研究活動の成果発表に関する必要なものの補助
- ・研究者の資質及び能力向上のための研究者間交流の促進

クレジットカード払い、郵便振込、銀行振込または現金により  
ご寄付を受け付けています。

詳細は以下のQRコードからご確認ください。



## 税制上の優遇措置があります

- (1) 個人からのご寄附の場合
- ① 所得税については、寄附金控除の対象となります。平成28年度の税制改正により、寄附者の税額が従来よりも大幅に軽減される税額控除が導入されました。各寄附者の税率に関係なく、所得税額から直接寄附金額の一定割合が控除されます。  
 $(\text{寄附金額} - 2,000\text{円}) \times 40\% = \text{控除対象額} \rightarrow \text{所得税額から控除}$   
※1 寄附金支出額が、総所得額等の40%に相当する金額を超える場合には、40%に相当する額が税額控除対象寄附金となります。  
※2 控除対象額は、所得税額の25%までとなります。
- ② 個人住民税の寄附金控除については、自治体が条例で指定した寄附金が控除対象となります。室蘭工業大学は、現在、北海道並びに室蘭市、登別市及び伊達市から指定を受けています。
- (2) 法人からのご寄附の場合  
寄附金の全額を法人税法上の損金に算入することができます。

広報誌蘭岳をお読みいただき、ありがとうございました。

今後の蘭岳の改善や充実を図るため、アンケートを実施しています。

アンケートにご協力いただいた方から抽選で10名の方に、「ムロぴょんぬいぐるみ」を進呈いたします。

ご希望の方はアンケート回答時にEメールアドレスのご入力が必要となります。

(誤ったメールアドレスを入力いただいた場合、抽選対象から除かせていただきます。ご了承ください。)

下記QRコードによりアクセスしてください。

(回答期限:令和6年5月31日(金))

ご協力よろしく申し上げます。



抽選で10名様に、  
「ムロぴょんぬいぐるみ」  
プレゼント!





X  
@Muroran\_IT



Instagram  
@muroran\_it



YouTube  
@muroran\_it



TikTok  
@muroranit

国立大学法人室蘭工業大学広報誌  
蘭岳第149号

令和6年3月1日発行  
室蘭工業大学広報室  
〒050-8585  
室蘭市水元町27-1  
TEL: 0143-46-5014  
FAX: 0143-46-5032  
E-mail: [koho@muroran-it.ac.jp](mailto:koho@muroran-it.ac.jp)  
URL: <https://muroran-it.ac.jp/>

